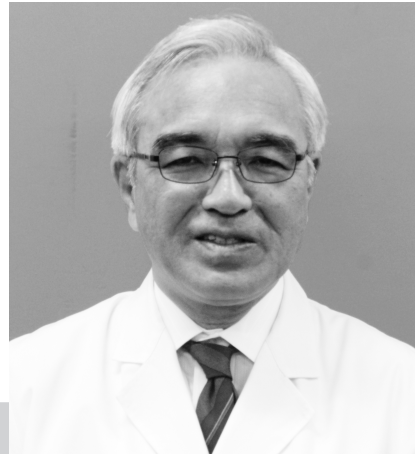


県民のニーズに応え、地域に根差した病院運営を目指します。宜しくお願い致します。



沖縄県立南部医療センター・
こども医療センター 副院長
佐久本 薫 先生

Q1. 県立南部医療センター・こども医療センター副院長ご就任、誠におめでとうございます。就任されて約10カ月が過ぎましたが、ご感想と今後の抱負をお聞かせいただけますでしょうか。

昭和54年に熊本大学を卒業後、熊本や北九州市の病院で勤務していました。昭和58年4月に琉球大学医学部産科婦人科学教室が開講されたのに合わせて沖縄に帰ってきました。県立八重山病院へ1年間出向した以外は琉球大学に奉職しました。実に29年間琉球大学に勤務したことになります。初代中山道男教授（故）、二代金澤浩二教授、現在の青木陽一教授に師事致しました。琉球大学の教授、准教授から県立病院の管理職へ転出したのは私が初めてかもしれません。琉球大学と沖縄県病院事業局や福祉保健部、各県立病院とのパイプ役になることができれば幸いです。

管理職として慣れない業務ばかりで最初は戸惑いばかりでした。10カ月が過ぎて、次第に日常業務に慣れてくるに従い、産婦人科の日常診療も手伝えるようになっていきます。

Q2. 琉球大学医学部附属病院から沖縄県立南部医療センター・こども医療センターに移られて色々な変化があったかと思われまます。今後どのような医療展開を目指しておられるのかお聞かせください。

県立南部医療センター・こども医療センター

にも様々な問題があります。救急室のあり方、泌尿器科医の確保、看護職員の確保など人材の確保には苦勞しています。病院長、看護部長を中心にいっそう努力したいと思います。初期研修医のカリキュラムの改善も研修管理委員会を中心に行っています。現在の懸案は電子カルテの更新です。ベンダーが変更されることになり、ワーキンググループを立ち上げ、診療のサポートだけでなく医事業務との連携、データ管理でも優れた電子カルテにしたいと考えています。

当院は、救急救命センター、総合周産期母子医療センターとしての機能も果たしながら県内唯一のこども病院としての役割も果たさなければなりません。また、小児診療と一般成人部門とのバランス、救急室の維持と専門診療の充実など全てを満足させることが難しいことも多々あります。県民、患者様のニーズと当院の理念を守りながら解決策を見つけていきたいと思っています。

Q3. 近年深刻さを増す産科医不足について沖縄県の周産期医療の現状についてお聞かせ下さい。

沖縄県の産科・周産期医療は多くの問題を抱えています。全国的な問題ですが分娩を取り扱う産科施設が減少しています。県内では病院と診療所合わせて平成18年には46施設でしたが、平成24年11月現在、産婦人科施設58施設のうち36施設しか分娩を取り扱っていません。名護

市では2診療所、宮古島市は1診療所です。産婦人科医の高齢化もあって、都市部でも分娩取扱いを止める施設が出てきています。各地区での分娩取扱いの拠点となる施設の確保、産科を専門とする医師の確保が今後の課題となります。

沖縄県では産婦人科を希望する若い医師は増加しているのですが、女性医師が多く、妊娠出産、育児支援が必要になります。若い医師の研修と離島支援をうまく組み合わせることが必要になると思います。産婦人科医の育成には琉球大学医学部附属病院産科婦人科学教室と連携した研修プログラムの作成・推進と県立病院産婦人科との人的な交流を進めたいと思います。その中から産科・周産期に興味のある医師を育てたいと考えます。

妊婦の高齢化、ハイリスク妊娠の増加、帝王切開率の上昇など産科医療はますます厳しいものになっています。二つの命を預かること、常に緊急性を伴うこと、訴訟が多いことも産科の特徴です。産科・周産期医療の発展に伴い高度な診療を維持することが必要です。そのためには拠点となる県立病院に複数の産科医と新生児専門医、麻酔医、看護師・助産師などのチーム医療を確保することが重要であると思います。このことから現時点での県立北部病院の産科診療再開は問題が多いと思います。県立八重山病院の産婦人科医は当面5人が確保される見込みです。県医師会の会員である診療所の先生方と協力連携を深め、産科医を確保し、最も出生率の高い沖縄県の産科周産期医療において安心・安全な産科診療を県民に提供したいと考えます。(産科医師数などは県医師会報、11号32ページ、マスコミとの懇談会「産科医師不足について」報告を参照して下さい。)

Q4. 県医師会に対する要望等がございましたらお聞かせ下さい。

日頃より産科周産期診療に協力していただき感謝申し上げます。平成24年8月にはマスコミとの懇談会に「産科医師不足について」を取り上げていただきました。産科医師の増員や県立病院の産婦人科の充実には県医師会の更なる支援が必要と考えます。女性医師の支援にもこれまで以上に取り組んでいただきたいと思います。沖縄県産婦人科医会(会長:佐久本哲郎)とも協力し、様々な産婦人診療の改善に向けて努力をしていきたいと思ひます。県立南部医療センター・こども医療センターとしても研修医の診療所実習に医師会会員の先生方の診療所で実習させていただいています。改めて感謝申し上げます。さらに地域連携を推進していきたいと考えています。県医師会のこれまで以上のご協力をお願いします。

Q5. 大変ご多忙の身であります、日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がありましたらお聞かせください。

週末の土日の夕方に新都心公園を変な格好をして歩いています。運動と食べる量とが釣り合わないためメタボリックな状態です。酒を控えるのが先だとの指摘は多くの人から受けていますが、なかなかやめられません。趣味は「日曜朝市」です。折込みチラシで卵や野菜、トイレトペーパー、洗剤の値段を調べ安い日曜に買い込みます。メモを取らずに今日はどこのスーパーの大根が99円、白菜1/2が138円、卵128円、牛乳198円などと覚えます。メモしない分結構頭を使います。ボケ防止にはもってこいだと思います。日曜の朝にスーパーで見かけたら声をかけてください。

インタビューアー 広報委員 本竹 秀光